

令和6年度宇和島市民生委員児童委員協議会被災地視察研修会 実施報告書

開催日：令和6年7月17日（水）～18日（木）

開催場所：熊本県益城町、熊本市、阿蘇市

参加者：17名（地区会長16名（欠席 明倫、遊子）、事務局1名）

目的

災害に関する知識や災害リスク等について学ぶことにより、民生児童委員個人が防災意識を高め、災害への備えを充実強化するとともに、他自治体における民生委員の対応事例を学び、情報共有・情報交換を行うことで、民生児童委員としての役割を理解し、市民児協、単位民児協の組織的機能を強化することを目的とする。

内容

1 益城町民生委員児童委員協議会交流研修会

日時：7月17日（水）14時00分～16時00分

会場：益城町交流情報センター ミナテラス（益城町木山236）

応対者：益城町民児協8名（土山秀喜会長、木下副会長、水上副会長、富田副会長、山下書記、西島会計、事務局 野崎、担当 岩下）

概要：益城町民児協より、熊本地震における民生児童委員の取り組みについて講話いただいた後、グループに分かれ、意見交換を行い、最後に全体で発表を行うことで、災害時における民生児童委員の役割について考える。

講話

○益城町（R5.3現在）：人口33,495人、世帯14,231人、高齢化率30%

○益城町民児協：定数64名（うち主任児童委員3名）

○熊本地震での益城町の被害状況

- ・2週間で2回の震度7、4,654回の余震が襲った。
- ・町全体の98%が被災。町民の半分以上が避難を要した。
- ・役場職員、区長、民生委員といった「支援者が被災者」となる。

◆土山会長ご挨拶



◆事務局野崎さん講話



○民生児童委員の取り組み

時期	取り組み
地震直後	<p>ポイント『自分自身と家族の安全確保が最優先』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の一人として「<u>率先避難</u>」を心がける ・要援護者を訪問したくてもどこに誰が避難したかわからない。
避難生活期	<p>ポイント『支援を必要とする人に、必要な支援が届くようにつなぐ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>無理のない範囲</u>で、日頃の活動で把握する要支援者情報を収集。 ・ボランティアセンター等関係機関に共有。
復興期	<p>ポイント『できることから… 民生委員児童委員活動』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災から2ヶ月後、民協定例会、地域サロン再開。委員どうしや関係機関との情報のすりあわせ。
現在・今後	<p>ポイント『平常時の取り組みこそが重要』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から近所のことを把握する。災害時に限らず声かけを行う。 ・<u>自助・共助</u>による地域の防災力が災害時の被害を抑える。

グループワーク

- 発災直後、自分の家が崩壊したのを目の前に、人のために働く、人のために何かしないとという気は起らなかった。自分のことを最優先に考える。
- トイレの確保が大変だった。日頃から井戸水がどこにあるのか把握したり、ステッカー等でわかりやすく掲示するとよいのでは。
- 益城町は土日以外どこかの地区で高齢者サロンが開催されている。日頃から住民どうしで交流を深めることで、災害時に要支援者情報を得やすくなる。
- 避難所や仮設住宅で声かけを行った。非日常において、日常会話をするだけで気持ちが和らぐと言われ感謝された。また、他の要支援者情報を得るきっかけになった。
- 避難所などにおいて、誰がリーダーを担っていたのか。
→男性が水を運び、女性が配食をするなど、各々が自然と行動していた。発災直後は公助に期待できない。大規模災害時は、自助・共助により生き延びることが大切。
- 熊本地震の経験から、避難地等の整備や、県内7市町村民児協災害時応援協定の締結など、災害への備えが充実した。また、県外の学校、高齢者との交流が広がった。

◆グループワーク



◆集合写真



2 熊本県防災センター見学

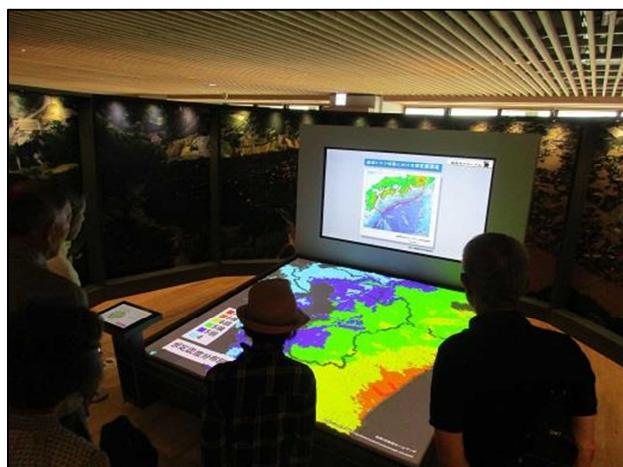
日時：7月18日（木）9時00分～10時00分

会場：熊本県防災センター（熊本市中央区水前寺6丁目18-1）

応対者：熊本県危機管理防災課 担当職員

概要：展示パネル、プロジェクトマッピング、VR体験等を通して、防災基礎について学び、災害時に被害を最小限にするための取り組みについて考える。

- 展示パネルを用いて、熊本の災害の歴史について説明を受けた後、地震災害・風水害・火山災害のメカニズムについて学んだ。



- VRによる災害体験を行った。地震と水害について、屋内と屋外の場面ごとに、災害が起きたときの防災行動について学んだ。

地震：頭部を保護し丈夫な机の下など安全な場所に避難。看板など落下の恐れのあるものから離れる。緊急車両の妨げになるので車のキーはつけておく。など

水害：日頃から防災情報を収集し、早めに避難する。など

○プロジェクトマッピングにより、災害のメカニズム、被害状況について学んだ。パネルや口頭での説明に加え、映像で学ぶことで、発災後の被害範囲の広がり方など、視覚的にわかりやすく知識を身につけることができた。



○熊本県が実施する防災に関する取り組み、防災センターの役割についての説明を受け、研修を終えた。

○防災センターの役割

九州を支える広域防災拠点の総合調整を行う指令拠点。合同現地対策本部、情報収集、災害対応ノウハウの提供・発信機能としての役割を担う。

○その他展示物・集合写真



3 熊本地震震災ミュージアムK I O K U見学

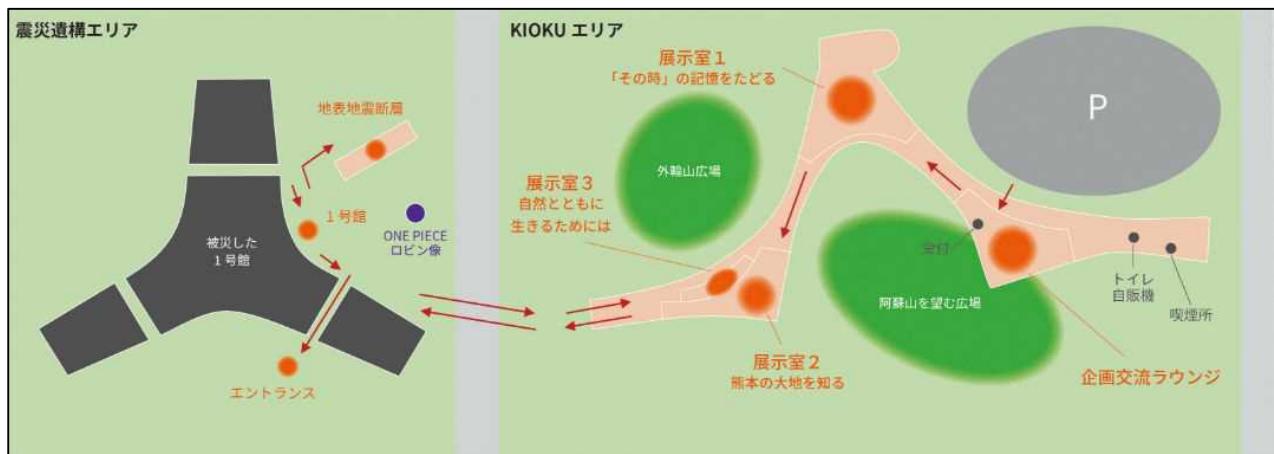
日時：7月18日（木）11時15分～12時00分

会場：熊本地震震災ミュージアムK I O K U（南阿蘇村河陽5343-1）

応対者：震災ミュージアム 職員2名（案内、語り部）

概要：K I O K Uエリアにて、震災の実情が遺る物の展示や当時の被災状況を伝える映像を視聴することで、熊本地震を振り返る。

震災遺構エリアにて、被災状況をそのまま残している旧東海大学阿蘇校舎や地震により生じた地表地震断層を見学し、自然災害の甚大さを学ぶ。



OKIOKUエリア



○震災遺構エリア



所感

災害時に関係機関へ円滑に情報提供し、迅速な支援につなげるためには、地域の見守り、情報収集など、平常時の委員活動を充実させることが重要だと学んだ。

大規模災害の際は、ひとりの住民として、自分の身を守り、避難所等で協力し合うといった、自助・共助の大切さを改めて認識することができた。

また、施設見学では自然災害の強大さ、悲惨さを再認識すると同時に、住民が一丸となり復興に向けて尽力し、これからの中の熊本を創る姿に心を打たれた。

本研修会で学んだことを地域で活かし、災害に備える体制づくりに努めたい。